

新提案 「よりよい高齢社会をめざすイベント月間」

平成25（2013）年度高連協総会 ディベートより

2013・5・13 15:00～16:00

日本プレスセンター9F 日本記者クラブ宴会場

提案者 岡本憲之氏 JTTA理事長 発言

団塊世代の岡本でございます。機会があればと思っておりましたが、今日は多くの高齢社会関係団体が参加している高連協の役割について、少し違った角度からご提案をさせていただきます。と思っております。

高連協参加団体のひとつひとつ、樋口・堀田両代表がやっておられる「高齢社会をよくする女性の会」にしても「さわやか福祉財団」にしても、すばらしい活動をされています。それ以外の団体もそれぞれにみなさん活動されているわけですが、若い立場であえて失礼なことを申しあげさせていただくと、各団体の活動はややもすると当該団体の関係者の範囲にとどまってしまっているのではないかと、という印象を持っております。より広く一般の人びとあるいは国民的な活動・運動にまで広がっていないのではないかなという気がいたしております。そこで個々の団体の活動が国民的な活動・運動にまで繋がるためのしかけが必要ではないかと思っております。

例が適切かどうか分からないのですが、参考になるのが「バレンタインデー」です。個々のチョコレートメーカーは日々、チョコレートを製造・販売しておりますが、それはあくまで各チョコレートメーカーの活動です。しかし2月の「バレンタインデー」にむけた期間、明らかに様相が異なって、少なくともその期間は個々のチョコレートメーカーの活動が、国民的活動とか運動と結びついているのではないかと。結果的には明治も森永もロッテも、だいたいその期間に年間の半分以上の売り上げを稼いでいます。

それは余談ですけれども。ここでの提案というのは、9月の第3月曜日の「敬老の日」とか10月1日の「国際高齢者デー」をふくむ9月から10月を中心にしてその前後も含めた期間を、たとえば「よりよい高齢社会をめざすイベント月間」とかイベント・シーズンとして定めてはどうか。単に老人とか高齢者だけではなくて、若者世代もふくめて「高齢社会・日本」で暮らすすべての世代の人びとが、よりよい高齢社会づくりについて考え行動する、それを促す啓発期間という考え方でございます。少なくともその期間は、個々の団体の活動が国民的活動・運動に結びつくのではないかと考えた次第でございます。実はそういった運動を盛り上げることこそ、多くの高齢社会活動の団体が参加する高連協の役割ではないかと思うわけです。

本日、やや荒唐無稽といわれるかもしれませんが、あえてご提案申しあげた次第でございます。発言の機会を与えてくださいまして、ありがとうございました。（拍手）

よりよい高齢社会づくりを目指す

「菊リボン運動」の提案

(高齢化が進むわが国において1つの提案を致します)

2013/07/01

J T T A 理事長 岡本憲之

高齢化が進むわが国において、高齢社会をよりよくしようと頑張っている諸団体の1つ1つは、それぞれが素晴らしい活動を行なっていると思います。しかし各団体の活動は、ややもすると当該団体の関係者の範囲に止まってしまっているのではないのでしょうか。より広く一般の人々の認知と理解を得た活動、すなわち国民的活運動にまで広がっていないような気がします。したがって個々の団体の活動が、国民的活動にまで繋がるための仕掛けが必要ではないかと考えます。

そこで提案ですが、毎年9月中旬から11月頃までを、全ての世代に優しい、明るく活力のある、「よりよい高齢社会づくり」を目指す運動の期間と定めます。ちなみに9月15日の「老人の日」から始まる「老人週間」、9月第3月曜日の「敬老の日」、10月1日の「国際高齢者デー」、長寿を願う重陽の節句（旧暦9月9日）などもこの期間に含まれます。

その期間を、よりよい高齢社会づくりを目指す「菊リボン運動」シーズンと称し、高齢社会をよくするために活動する人々は、「菊リボン」（菊の模様をデザインしたリボン）を着用することにしてはどうでしょうか。

つまり、この「菊リボン」を、単に高齢者だけではなく、若者世代も含め、高齢社会日本で暮らす全ての世代の人々が、「よりよい高齢社会づくり」について考え、行動するよう促し、その活動を応援するシンボルと位置づけることにします。

結果として、少なくとも「菊リボン運動」シーズンの期間は、個々の団体の活動が国民的運動に結び付くのではないかと考える次第です。

(NPO 日本シンクタンクアカデミー 情報発信「毎月コラム」2013年7月)